総合教育会議

説明資料

これからの市立高校の在り方

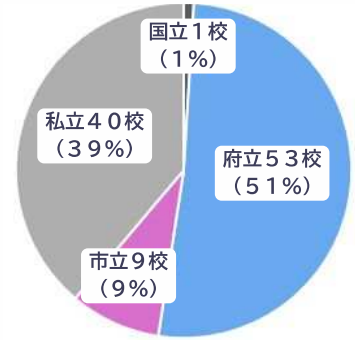
～「京都市立高校スクール・ミッション」の改定～

教育委員会　指導部　学校指導課（高校教育担当）

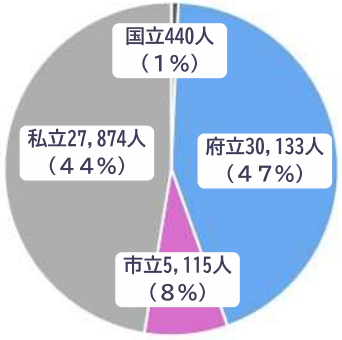
京都府の公立高校の現状

京都府の公立高校

Ｒ７学校数
（１０３校）



Ｒ７生徒数
（63,562人）



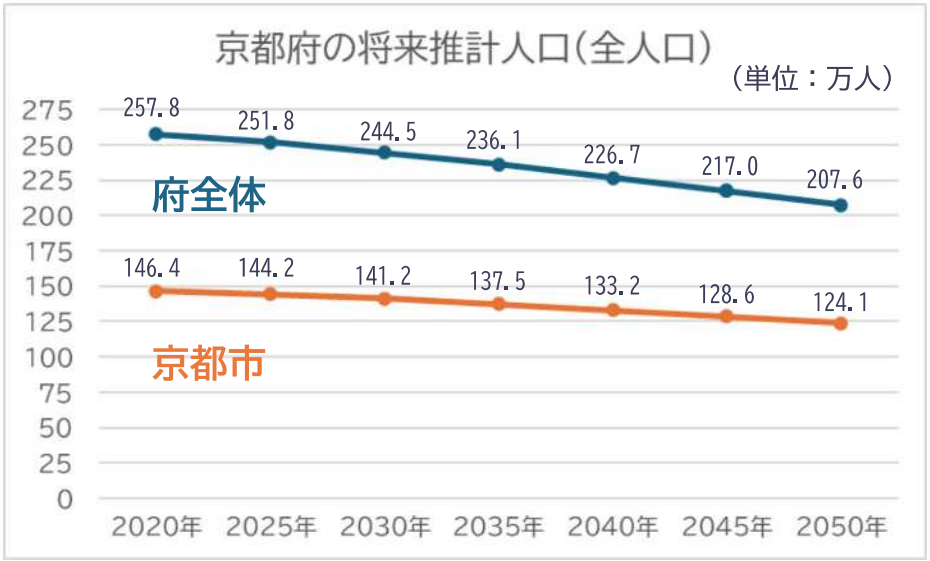
【特徴】

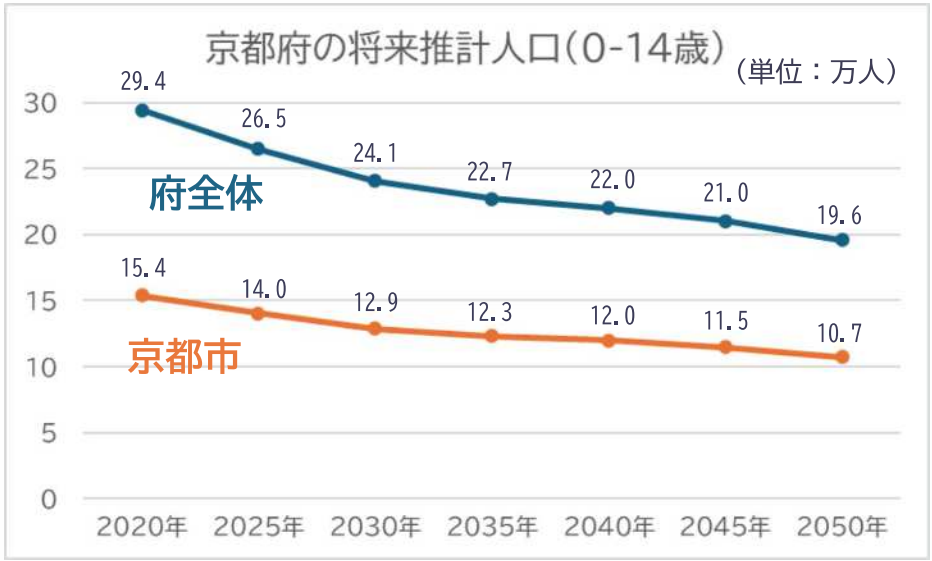
- 学校数に占める私学の割合が高い
  ３８．８%（全国２位）
- 高校卒業者の大学進学率が高い
  ７１．８%（全国２位）
- 全日制定員に占める普通科系の割合が高い
  ８５．８%（全国１位）



現状①（人口減少予測）

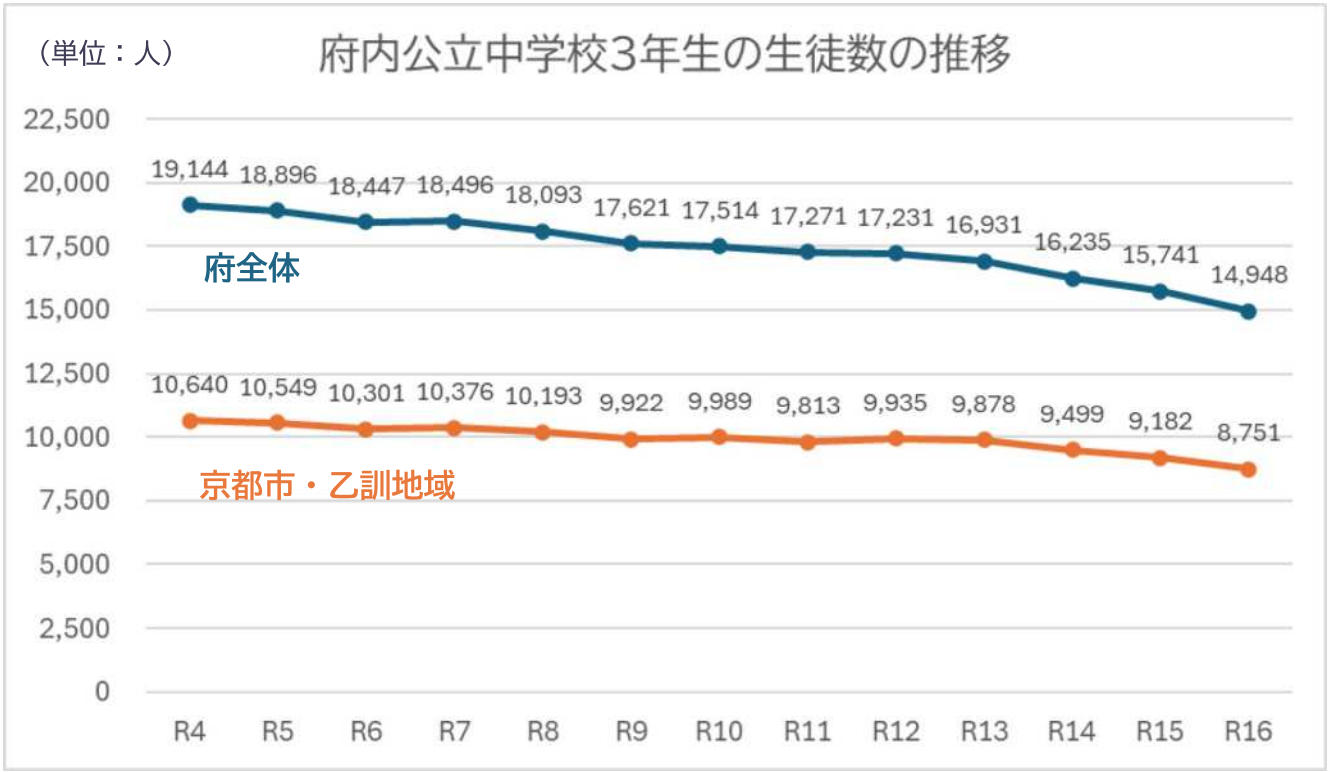
2020年（令和2年）から2050年（令和32年）までに、
京都府の全人口は**約50万人減少（▲19.4%）**、京都市の全人口は**約22万人減少（▲15.2%）**
京都府の0-14歳人口は、**約10万人減少（▲33.4%）**、京都市の0-14歳人口は**約5万人減少（▲30.1%）**





（出典：国立社会保障・人口問題研究所「将来人口推計」（令和5年12月公表）を基に作成。

現状②（府内中３生徒数の減少）



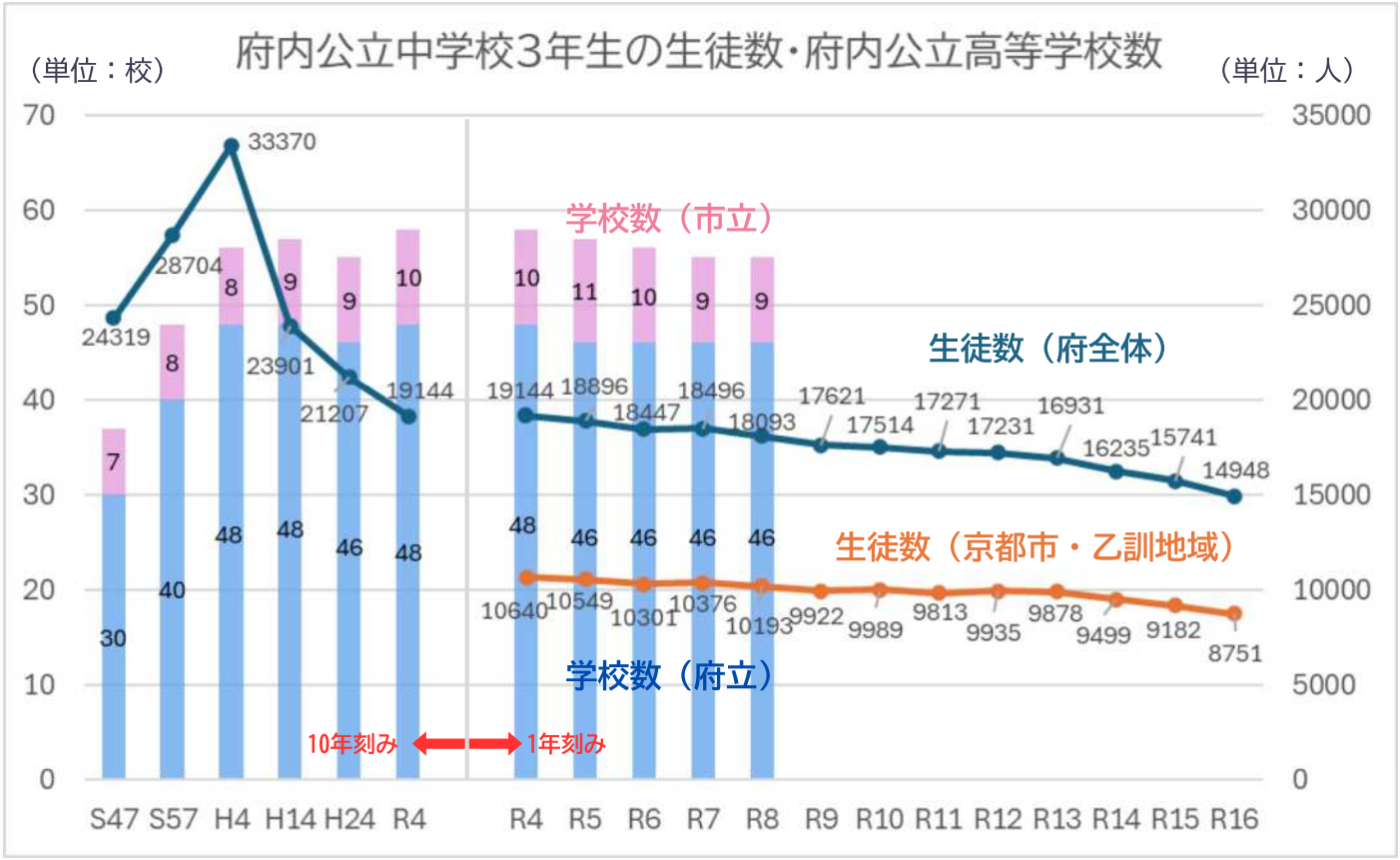
（出典：京都府教委「魅力ある府立高校づくり推進基本計画」を基に作成）

令和４年度を基準とする京都府教育委員会による推計では、令和16年度（2034年度）までに、公立中学校３年生の生徒数は、

京都府全体で
約4,000人減少（▲21.9%）

京都市・乙訓地域で
約2,000人減少（▲17.8%）

現状③（府内中３生徒数推移と公立学校数）

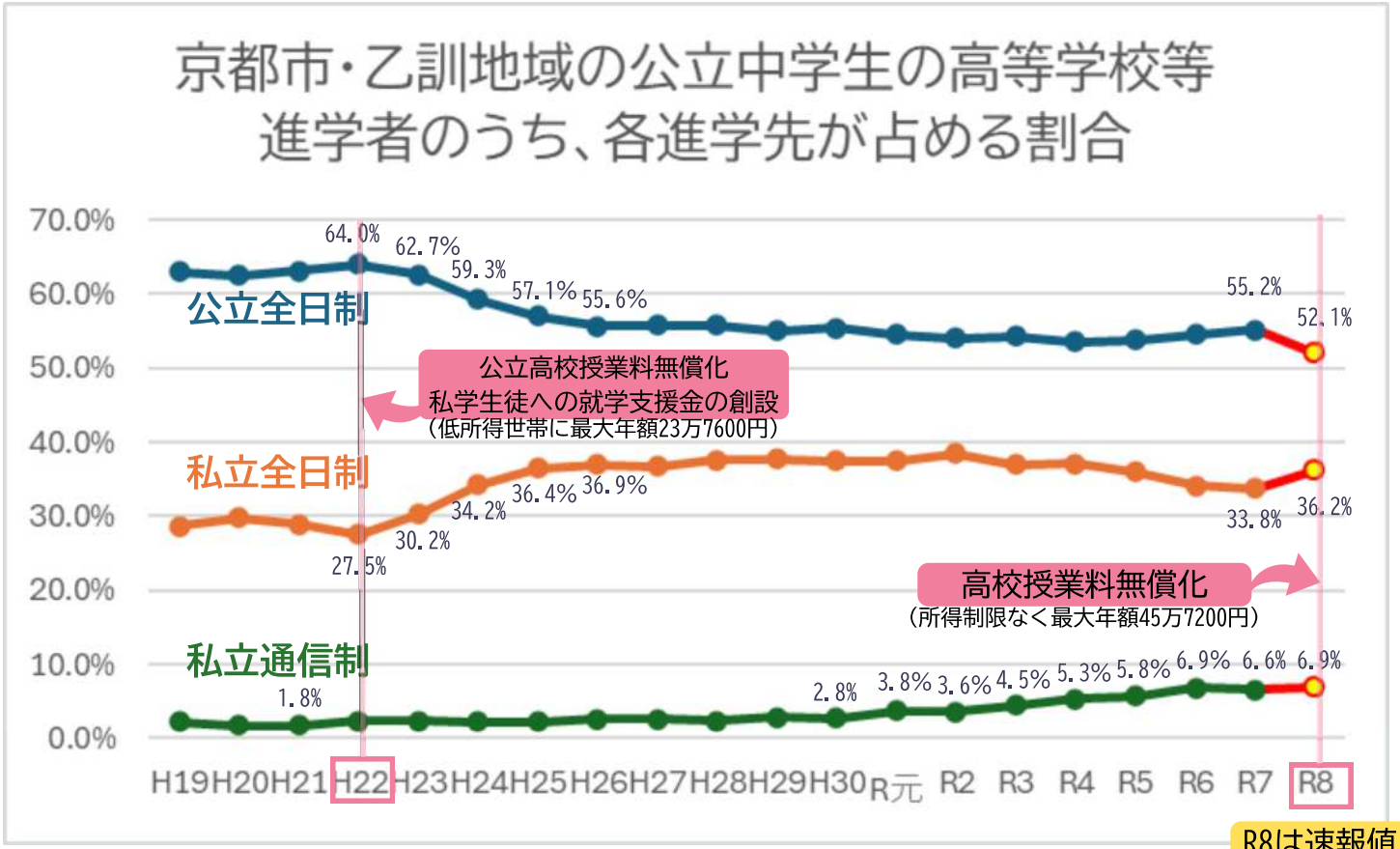


（出典：学校数は「学校基本調査」より。S47～H24の生徒数は府教委「教育調査統計報告書」の中学校卒業者総数を引用。）
※学校数は本校のみで分校は含まない。全日制・定時制などの複数課程並置校も1校とカウント。

S47からR4までの50年間の推移では、かつて生徒数増加に対応して公立高校数を増加させた一方、**生徒数減少期に入っても公立高校（本校）の学校数はほぼ横ばいで推移。**

その状況はR8現在も続いているが、今後さらに生徒数の減少が見込まれる。

現状④（通信制の拡大、私学シフトの可能性）



（出典：京都府教育委員会「卒業後の進路」調査より）

コロナ禍を経て、広域制を含む**通信制高校への進学者が拡大。**

令和8年度からの高校授業料無償化により、**今後数年かけて私学志向が一層高まる可能性。**

【参考】
先行する大阪府の無償化施策で「キャップ制」（補助上限を超える授業料を学校負担とする制度）が導入された状況と異なり、京都府においては私学が授業料値上げを行うことで、高校授業料無償化による私学志向の高まりが限定的な影響に留まる可能性もある。

現状⑤（2040年問題）

経済産業省「2040年の就業構造推計」より

	事務職	AI・ロボット等 利活用人材	現場人材	大卒・院卒 理系
全　国	＋437万人	－339万人	－260万人	－124万人
京都府	＋8.3万人	－8万人	－18.2万人	－2.3万人

全国的傾向と同様に京都府でも労働力需給ギャップが見込まれる一方で、
高い大学進学率を背景に普通科系志向が高く、かつ普通科系卒業生の理系進学割合が低い。

- 府内全日制高校の募集定員に占める普通科系の割合　85.8%
- 普通科系生徒の理数系大学進学率　21.7%

現状⑥（その他の環境の変化）

- 私学の共学化
- 高校授業料無償化による私学中高一貫校の志望者増加の可能性
- 外国につながる生徒の増加（公立中学校を経ない来日直後の高校入学も）
- 従来の通信制の枠に留まらない柔軟で多様な通学形態・学習形態の登場
- 中学校部活動の地域展開（学校以外の場で競技力向上に取り組む生徒が高校へ進学）
- 大学学部の理系転換
-
-

国の高校関連政策の動向

N-E.X.Tハイスクール構想

【背景】
少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化の深刻化の中で、
就業構造の変化により生じる労働力需給ギャップ（**「2040年問題」**）

〔高校授業料無償化による全国的な私学志向の高まり、公立高校の
役割の再定義と更なる魅力化の必要性〕

国として高校改革のグランドデザインを示すとともに、
各種施策により都道府県の実情に応じた取組を強力に後押し

文部科学省「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）」（令和８年２月）

1. グランドデザインの背景・必要性

- ✓ AIの実装などデジタル技術の目まぐるしい発展
  2040年には、少子高齢化、生産年齢人口の減少、地方の過疎化が一層深刻化
  →現在の人材供給トレンドが続けば、労働力需給ギャップが発生
  （事務職は余剰、AI・ロボット関係、いわゆる理系人材は不足）
- ✓ 将来を正確に予測することは難しく、どのような未来が訪れるか分からない
  →生徒それぞれの多様な個性やニーズ、興味・関心に応じた学びを生かした自己実現を支え、生徒の可能性を広げ能力を伸ばす
  →全ての高校生が家庭の経済状況等に左右されることなく、希望する大学等への進学や就職等をし、それが個人の幸福につながり、ひいては、我が国の経済・社会の基盤を強いものとしていくことにつながる



2. 高校改革の方向性～2040年に向けた高校の姿～

視点１ 不確実な時代を自立して生きていく主権者として、AIに代替されない能力や個性の伸長

学びの在り方の転換
（New Transformation）

- ✓ リアルとデジタルの良さを組み合わせつつ、「好き」を育み、「得意」を伸ばす機会を確保し、生徒の実態を踏まえた柔軟な教育課程の実現
- ✓ スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえた教育活動の改善、公表
- ✓ 高校教育と一貫した大学教育改革（主体的・自律的な学修のための環境構築、出口における質保証等）

視点２ 我が国や地域の経済・社会の発展を支える人材育成

最先端を学ぶ高校の特色化・魅力化
（New Excellence）

- ✓ 探究・文理横断・実践的な学び、STEAM教育、産業界と協働した専門高校の学びの充実
  ➡ 理数・文系的素養やAIを使いこなす力を身に付け、社会で活躍するロールモデルを体感
- ✓ 各高校の特色化・魅力化
  ➡ 学科構成の見直し、専門高校の機能強化・高度化、グローバル人材の育成
  ➡ 「普通科」の在り方の転換、即戦力の人材と進学を見据えた高度専門職人材の育成

視点３ 一人一人の多様な学習ニーズに対応した教育機会・アクセスの確保

学ぶ機会・アクセスの確保
（New Education）

- ✓ 全国どこにいても多様で質の高い学びを保障し、地方の生徒はもとより誰一人取り残されず、全ての生徒の可能性を最大限引き出す
  （地理的アクセスの確保、都道府県の実情等に応じた学校配置・規模の適正化、小規模校を含む遠隔授業等の推進）
- ✓ 通信制高校の教育の質の確保・向上
- ✓ 不登校生徒への学習支援、特別支援教育や日本語指導が必要な生徒への教育の充実

3つの視点を重視しながら、更なる高校改革を進め、N-E.X.T.ハイスクール構想を実現する。
高校から大学・大学院に至るまでの一貫した改革により、強い経済や地域社会の基盤となる人材を育成する。

文部科学省「高校教育改革に関する基本方針（グランドデザイン）」（令和８年２月）

3. N-E.X.T.ハイスクール構想の中核となる高校支援

国の
高校教育改革に関する
グランドデザイン策定

→ 都道府県 実行計画策定

総合教育会議等を活用し、地域別就業構造の推計や人口の将来推計等を踏まえて検討。首長、関係部局、大学、地域の関係者や産業界との連携・協働を図る。

→ 安定財源を確保した上で、
交付金等の新たな財政支援の
仕組みの構築

基金の執行状況等を踏まえ、R9年度予算の編成過程で検討。

※交付金等の構築に先立ち、高校教育改革のための基金を都道府県に造成し、N-E.X.T.ハイスクール構想の実現のために、パイロットケースとして先導的な学びの在り方を構築する高校（改革先導拠点）を創設。

新しい学校のイメージや取組例

専門高校の機能強化・高度化
（アドバンスト・エッセンシャルワーカーの育成等）

（学校のイメージ）
地域発のイノベーションを興すことのできる人材等の育成を目指し、理論と実践の往還によるカリキュラムの実施等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

（取組例）
- ✓ ビジネス経験の必修化
- ✓ ものづくりから流通まで一体的な学びの実践
- ✓ 「高校版企業寄附講座」等の実践やそれを前提とした進学・就職機会の確保

普通科改革を通じた高校の特色化・魅力化
（文理の双方の素養を有する人材の育成等）

（学校のイメージ）
文理にとらわれない幅広い教養等を備えた新しい価値を創造する人材等の育成を目指し、実社会につながる生きた授業の実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

（取組例）
- ✓ 実社会につながる生きた授業の実践
- ✓ 高度実験環境を核とする理数探究拠点整備
- ✓ 探究型授業研修の充実による教師のスキル向上、探究伴走支援専門チームの構築

地理的アクセス・多様な学びの確保

（学校のイメージ）
学校の枠を超えて多様な人々と協働し、社会の課題を主体的に探究・解決できる人材等の育成を目指し、柔軟で質の高い学びの実践等に取り組み、必要な施設設備の高度化が図られた学校

（取組例）
- ✓ 学校間連携や遠隔授業等を活用した教育機会の確保
- ✓ 学校と地域の関係機関の連携・協働の強化による学習環境の提供
- ✓ 他の学校種との連携の充実

これらの取組の一環として、留学支援を含むグローバル人材育成支援や、学校と地域が連携・協働した学力向上・学習支援などについて取り組む。

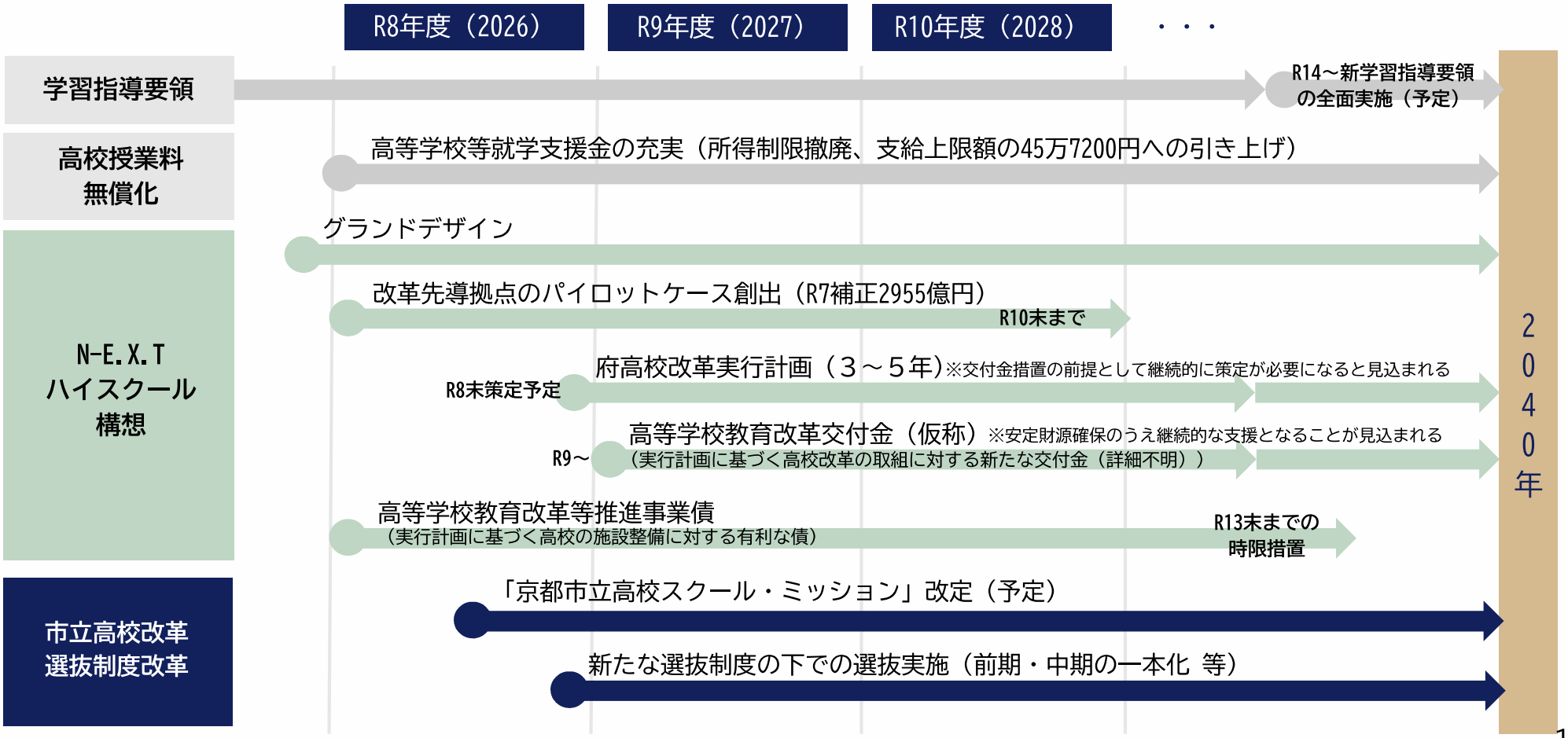
2040年までに達成を目指す目標

【職業教育の高度化・魅力の強化関係】
・地域の産業界等と連携・協働した取組を行う専門高校：100%
・少子化傾向においても専門高校の生徒数を現在と同水準

【普通科の在り方の転換・魅力の強化関係】
・文理横断的な学びに取り組む普通科高校：100%
・普通科でいわゆる文系と理系の生徒の割合：同程度

【多様な学びの確保関係】
・学びの状況に関する生徒の肯定的な評価の向上
・高校卒業段階の進路未決定者の割合の半減

高校改革を取り巻く動向



京都市立高校の改革

京都市立高校（９校）

紫野高校 普通科／アカデミア科
一歩踏み出すGlobal Citizen

堀川高校 普通科／探究学科群
すべては君の「知りたい」から始まる

京都堀川音楽高校 音楽科
「人とつながる」音楽家を目指して

西京高校 エンタープライジング科
社会にはばたくグローバルリーダーの育成

日吉ケ丘高校 普通科（単位制）
世界をつなぐ越境者

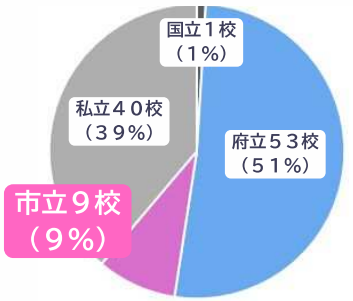
美術工芸高校 美術工芸科
美術「を」学ぶ学校から、美術「で」学ぶ学校へ

開建高校 普通科（ルミノベーション科）
やってみたいをやってみる

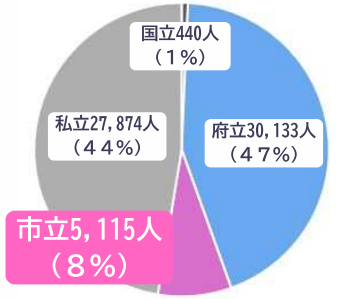
京都奏和高校 定時制課程・普通科
様々な困りを抱える生徒の学び直し

京都工学院高校 フロンティア理数科／プロジェクト工学科
科学技術×夢＝∞（infinity）

R７学校数



R７生徒数



音楽、美術工芸、工業、その他の専門学科や学び直しの課程など
中学生一人一人の学習ニーズに応える多彩な学校・学科を設置
全日制高校の募集定員に占める普通科及び普通科系専門学科の割合79.7%（府全体85.8%）

京都市立高校改革の主な軌跡

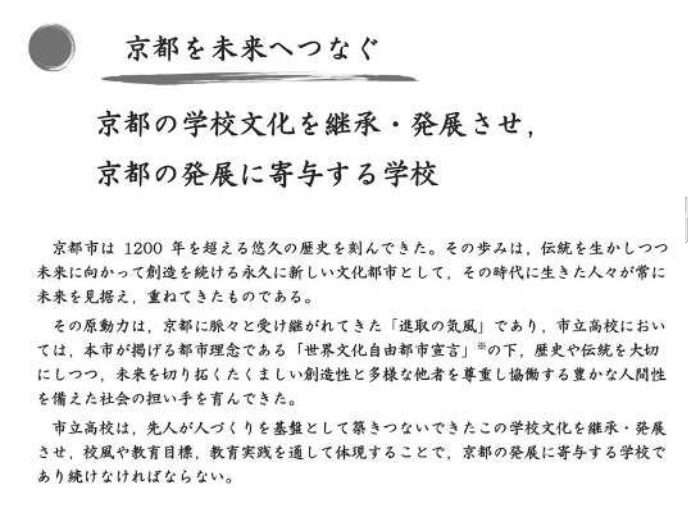
21世紀を「個」と「選択」の時代と位置づけ、生徒一人一人の個性と能力の伸長及び調和のとれた発達を支援し、生徒に「選択される」ことを自覚した学校を「求められる高等学校像」とした京都市立高等学校21世紀構想委員会答申の理念を受継ぎ、パイロット校である堀川高校を筆頭に、時代に応じてそれぞれの市立高校の特色を最大限磨く改革を実行。

平成9年度	京都市立高等学校21世紀構想委員会最終答申
平成11年度	**堀川高校**に人間探究科・自然探究科を設置
平成15年度	西京商業高校を改編し、**西京高校**エンタープライジング科を設置
平成16年度	**西京高校附属中学校**を新設
平成22年度	音楽高校を城巽の地へ移転し、**京都堀川音楽高校**に校名変更
平成26年度	京都市・乙訓地域の公立高等学校入学者選抜制度を改革（総合選抜→単独選抜　等） **日吉ケ丘高校**を進学型単位制普通科へ移行 **紫野高校**の普通科第Ⅲ類英文系をアカデミア科へ改編
平成28年度	洛陽工業高校・伏見工業高校の再編・統合により、**京都工学院高校**を創設
令和3年度	伏見工業高校・西京高校の両定時制の再編・統合により、**京都奏和高校**を創設 「京都市立高校スクール・ミッション」を策定
令和5年度	銅駝美術工芸高校を崇仁の地へ移転し、**美術工芸高校**に校名を変更 塔南高校を移転再編し、**開建高校**を開設

現行スクール・ミッション

≪現行：R3.9策定≫

- 令和３年１月の中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して」を受け、各高等学校の存在意義や社会的役割等を明確化するため、令和３年９月に「京都市立高校スクール・ミッション」を策定。
- スクール・ミッションの策定単位は学校ごとが基本とされているが、本市では、設置義務のない市立高校を設置している歴史的背景や意義を内外に示すため、独自に市立高校総体として策定。



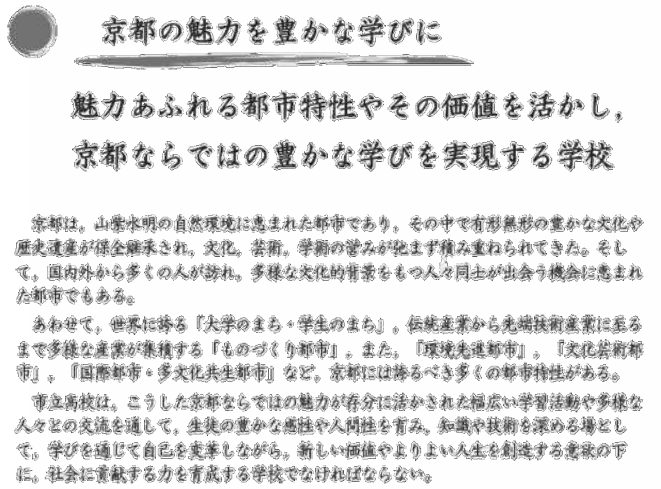
京都を未来へつなぐ

京都の学校文化を継承・発展させ，
京都の発展に寄与する学校

京都市は 1200 年を超える悠久の歴史を刻んできた。その歩みは，伝統を生かしつつ未来に向かって創造を続ける永久に新しい文化都市として，その時代に生きた人々が常に未来を見据え，重ねてきたものである。

その原動力は，京都に脈々と受け継がれてきた「進取の気風」であり，市立高校においては，本市が掲げる都市理念である「世界文化自由都市宣言」※の下，歴史や伝統を大切にしつつ，未来を切り拓くたくましい創造性と多様な他者を尊重し協働する豊かな人間性を備えた社会の担い手を育んできた。

市立高校は，先人が人づくりを基盤として築きつないできたこの学校文化を継承・発展させ，校風や教育目標，教育実践を通して体現することで，京都の発展に寄与する学校であり続けなければならない。



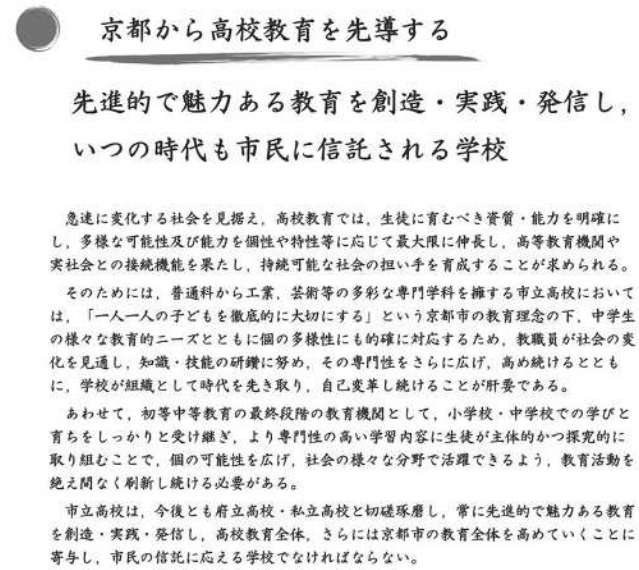
京都の魅力を豊かな学びに

魅力あふれる都市特性やその価値を活かし，
京都ならではの豊かな学びを実現する学校

京都は，山紫水明の自然環境に恵まれた都市であり，その中で有形無形の豊かな文化や歴史遺産が保全継承され，文化，芸術，学術の営みが絶えず積み重ねられてきた。そして，国内外から多くの人が訪れ，多様な文化的背景をもつ人々同士が出会う機会に恵まれた都市でもある。

あわせて，世界に誇る「大学のまち・学生のまち」，伝統産業から先端技術産業に至るまで多様な産業が集積する「ものづくり都市」，また，「環境先進都市」，「文化芸術都市」，「国際都市・多文化共生都市」など，京都には誇るべき多くの都市特性がある。

市立高校は，こうした京都ならではの魅力が存分に活かされた幅広い学習活動や多様な人々との交流を通して，生徒の豊かな感性や人間性を育み，知識や技術を深める場として，学びを通じて自己を変革しながら，新しい価値やよりよい人生を創造する意欲の下に，社会に貢献する力を育成する学校でなければならない。



京都から高校教育を先導する

先進的で魅力ある教育を創造・実践・発信し，
いつの時代も市民に信託される学校

急速に変化する社会を見据え，高校教育では，生徒に育むべき資質・能力を明確にし，多様な可能性及び能力を個性や特性等に応じて最大限に伸長し，高等教育機関や実社会との接続機能を果たし，持続可能な社会の担い手を育成することが求められる。

そのためには，普通科から工業，芸術等の多彩な専門学科を擁する市立高校においては，「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」という京都市の教育理念の下，中学生の様々な教育的ニーズとともに個の多様性にも的確に対応するため，教職員が社会の変化を見通し，知識・技能の研鑽に努め，その専門性をさらに広げ，高め続けるとともに，学校が組織として時代を先き取り，自己変革し続けることが肝要である。

あわせて，初等中等教育の最終段階の教育機関として，小学校・中学校での学びと育ちをしっかりと受け継ぎ，より専門性の高い学習内容に生徒が主体的かつ探究的に取り組むことで，個の可能性を広げ，社会の様々な分野で活躍できるよう，教育活動を絶え間なく刷新し続ける必要がある。

市立高校は，今後とも府立高校・私立高校と切磋琢磨し，常に先進的で魅力ある教育を創造・実践・発信し，高校教育全体，さらには京都市の教育全体を高めていくことに寄与し，市民の信託に応える学校でなければならない。

※現行版は資料として配布していますのでご確認ください。

「京都市立高校スクール・ミッション」の改定

現行「京都市立高校スクール・ミッション」（R3.9策定）

≪前回策定時以降の市立高校を取り巻く環境の変化≫

- 開建創設・美工移転など、一連の市立高校改革が着実に完了
- 少子化の進展や私学志向の高まりなど、社会情勢が大きく変化
- 2040年問題を背景に「N-E.X.Tハイスクール構想」が始動
- 2050年までのまちづくりを展望した「京都基本構想」の策定

上記の状況等を踏まえ、今後数十年を見据えた教育改革に着手していくための指針として「京都市立高校スクール・ミッション」について関係者で議論し、再定義することが必要。

改定の方向性

現行SMの理念を継承しながら、新たな３項目に再構築。
- Ⅰでは、これからの公立高校が目指すべき生徒像・学校像について、この間の社会情勢の変化等を踏まえて文言を精査。
- Ⅱでは、京都の都市特性を学びに生かすと同時に、**市立高校がまちづくりの一端を担いながら市民と共にあり続ける相互性を強調。**
- Ⅲでは、①②実現の基盤として、**各校の特色化を前提に公立の優位性となる学校間連携に言及。**

Ⅰ目指す生徒像・学校像
Ⅱ都市特性の活用と相互貢献
Ⅲ改革を継続する基盤

現行

①京都の学校文化を継承・発展させ、京都の発展に寄与する学校

○ 京都の学校文化の継承
○ 京都の発展に寄与

②魅力あふれる都市特性やその価値を活かし、京都ならではの豊かな学びを実現する学校

◆ 都市特性を生かした教育活動の展開
◆ 豊かな感性や人間性、社会に貢献する力の育成

③先進的で魅力ある教育を創造・実践・発信し、いつの時代も市民に信託される学校

□ 中学生のニーズに応える多彩な専門学科
□ 個の多様性への的確な対応
□ 教職員の研鑽
□ 教育活動の絶え間ない刷新
□ 府立・私学との切磋琢磨
□ 高校教育全体・京都市の教育全体を先導

改定案

Ⅰ 全ての生徒が自分らしく学び、希望を持って未来に踏み出せる学校

◆ 主体的・探究的に学び、他者協働を通して価値を創造する力の育成
◆ 生徒の学習者としての自立と主体的なキャリア発達の支援
□ 中学生の進路希望に対応した公立ならではの多様な学びの場の確保
□ 生徒の多様な個性・背景への包摂性

Ⅱ 「学藝の府」京都に学び、京都を共にかたちづくる学校

◆ 都市特性を生かした幅広い教育活動の展開
○ 京都の発展に寄与（義務教育段階の学びの質向上への貢献、大学や産業界、地域社会との相互貢献的な関係の構築、国際協調の下での世界の持続的な発展への貢献）

Ⅲ 各校が輝き、その魅力を結集させ、教育の本質に根差した挑戦を続ける学校群

○ 学校文化と進取の気風の継承
□ 教職員の教養・専門性・自らも学びと成長を楽しむ姿勢
□ 各校の魅力向上と独自の価値の創出
□ 学校間連携と教育資源の共有による市立高校総体の教育力の最大化
□ 京都の教育全体を高めていくことに寄与し、教育改革を先導

次ページ以降で各項目の具体的イメージを紹介

改定案で目指す市立高校の姿

Ⅰ　全ての生徒が自分らしく学び、希望を持って未来に踏み出せる学校

京都市立高校は、技術革新や社会変革が加速する社会の中にあって、自らの意志で探究的に学びと向き合い、多様な他者との協働を通して価値を創造し、幸福な個人として未来社会の発展に寄与できる力を生徒に育むことを使命とする。そのために、生徒の学習者としての自立を支え、社会の一員として成長していく歩みに寄り添い、主体的なキャリア発達を支援する。

そのため、普通科に加えて工業や美術工芸、音楽、その他の多彩な専門学科と学び直しの課程を幅広く有し、中学生一人一人の学習ニーズに的確に対応するとともに、多様な個性・背景を持つ生徒を包摂し、全ての生徒が互いを認め合い、自分らしく学び活躍できる場としてその役割を果たしていく。

これまでの主な取組と今後の方向性（Ⅰ関係）

「探究」を中核に据えた学校教育活動





堀川高校をパイロット校とする探究を軸に据えた学校づくり
SSHなど国研究指定も活用した教育活動の充実

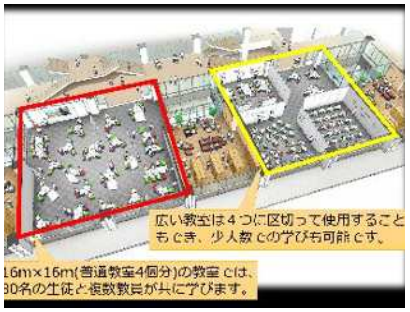
多彩な専門学科と各校の特色に応じた学びのアプローチ





音楽、美術、工業など多彩な専門高校・専門学科
中高一貫、国際理解・国際交流など特色に応じた学びのｱﾌﾟﾛｰﾁ

新しい時代の学校づくり





1クラス80人で学び、地域との共創でやってみたいをやってみる開建高校
不登校経験など様々な困りを抱える生徒が集団の中で学ぶ京都奏和高校

≪今後の方向性≫

- 「探究」の過程の充実(深化や教科との循環)、自律化
- 次期学習指導要領の趣旨を踏まえたカリキュラム改革、カリキュラムマネジメント
- 校外の学びへのアクセス向上
- 実社会につながる学びの充実
- 様々な背景を持つ生徒への支援に係る公立高校間での連携促進、役割分担

改定案で目指す市立高校の姿

Ⅱ　「学藝の府」京都に学び、京都を共にかたちづくる学校

京都市立高校は、世界有数の「学藝の府」京都の懐で育まれてきた。悠久の自然と深い歴史・文化をはじめ、大学・研究機関の集積や産業界の創造力、多様な国際交流など類稀な都市特性の数々を教育資源として活用し、幅広い教育活動を展開することで生徒の豊かな学びを実現する。

同時に、義務教育段階の学びの質向上への貢献や、大学や産業界、地域社会との幅広い協働、それらを通した未来社会を担う人材の育成・輩出により、これからの京都のまちづくりの一端を担い、世界文化自由都市宣言の掲げる理想の実現や、国際協調の下での世界の持続的な発展に貢献していく。

これまでの主な取組と今後の方向性（Ⅱ関係）


図書館コンサート


高校生による
工業出前講座


探究道場


SFC未来構想キャンプ


大学院生等による
探究活動の指導


企業や地域住民と協
働で進める探究活動

義務教育等

大学・研究機関

生涯学習

京都市立高校

産業界

歴史・文化

行政・市会

地域住民

世界


京都探究クエスト


能楽鑑賞教室


市会広報連携


起業家講演会


空き家カードゲーム


美術工芸高校の
京都駅東部エリア移転


生徒発案による
地域餅つき大会


姉妹都市交流


英語村

≪今後の方向性≫

京都学藝衆構想の下での実社会と連続した学びの創出

京都の国際性を生かした自己形成とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ力の育成

各校の特色に応じた義務教育等との連携

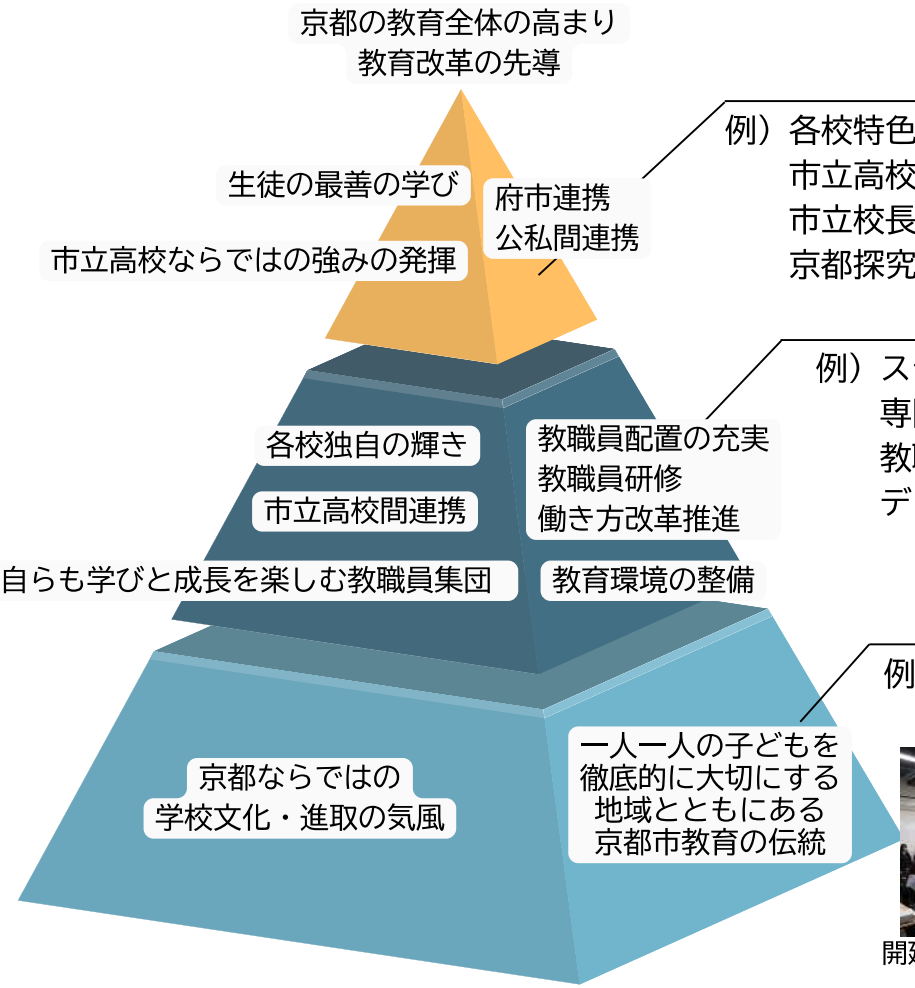
改定案で目指す市立高校の姿

Ⅲ　各校が輝き、その魅力を結集させ、教育の本質に根差した挑戦を続ける学校群

京都市立高校は、先人から受け継がれてきた学校文化と進取の気風を継承し、豊かな教養と高い専門性を併せ持ち自らも学びと成長を楽しむ教職員集団の下、生徒一人一人に焦点を当てた優れた教育実践により自校の魅力を磨き、独自の価値を創出していく。そして、学校間の連携と教育資源の共有により京都市立高校総体の教育力を最大化していく。

そうした基盤の下に、どのような時代においても常に生徒の最善の学びと市立高校ならではの強みを問い続け、府立・私立高校と互いに高め合いながら、京都で学ぶ全ての生徒が輝く教育実践を積み重ね、京都の教育全体を高めていくことに寄与し、教育改革を先導していく。

これまでの主な取組と今後の方向性（Ⅲ関係）



例）各校特色化を支援する戦略的予算配分
市立高校生の短期留学「グローバルリーダー育成研修」
市立校長会主催の「合同授業実践研修会」
京都探究エキスポ、教職員研修の府立・私学への公開

例）ステージに応じたきめ細かな教職員研修
専門教員の研修機会の確保（ｸﾞﾛｰﾊﾞﾙｶﾚｯｼﾞ事業）
教職員の業務精選に係るコンサル委託調査
デジタル環境の整備、トイレ洋式化、体育館空調

例）学校運営協議会の全校設置


開建高校学校運営協議会


GL育成研修


京都探究エキスポ


西京高校DXルーム整備

≪今後の方向性≫

- 特色を追求する大胆なカリキュラム改革・学校改革
- ９校の特色を互いに生かし合う市立高校ならではの学びの場の創出
- 教職員の働き方改革の推進
- 施設整備や設備機器高度化など学習環境の改善

まとめ（案）

市立高校を取り巻く現状

- 中３生徒数は減少するも公立学校数はほぼ横ばい（【H4】3.3万人、56校→【R8】1.8万人、55校）
- 私学志向の高まりや通信制増加の中、府内公立高校志願者は減少（R8中期選抜：平均志願者倍率0.85倍）
- 2040年までに理系人材やAI・ロボット等の高度な知識技能を身に付けたエッセンシャルワーカーが大幅に不足

→今後も少子化傾向が続くことは避けられず、公立高校の再編や在り方を考えていくべき時期を迎えている。
市立高校も、公立高校として、府市連携の下で、求められる役割や存在意義を改めて考える必要がある。

市立高校が果たすべき役割

①高校段階における多様な学びの保障

多彩な専門学科（音楽、美術、工業）と各校の特色に応じたアプローチ（探究、中高一貫、国際理解・国際交流、地域連携、学び直し）の確保

②多数を占める層にある生徒への良質な高校教育の提供

小・中・総支との校種間連携を生かした義務教育への貢献と良質な高校教育の提供は市立高校の強み。
市立が率先して優れた取組をモデル化し、府立・私学も含めた府内高校教育の充実を図る。

③京都のまちづくりとの相互貢献

地域に根差した学校づくりと積極的な庁内連携により、高校生に対して京都の都市特性を生かした多様な学びの場を提供するとともに、京都の文化や産業の活性化に寄与

今後の方向性

- 少子化の進行や公立高校の役割の変化、府内公立高校再編の議論など、変化する社会状況等を見極めつつ、引き続き小・中学生にとってより良い「府立高校や私学も含めた高校教育」の検討・実現に努める。
- 同時に、**今回のスクール・ミッションの改定を機に、市立高校ならではの強みや役割を再定義することで、生徒の自己実現と京都のまちの活性化のため、教育活動のさらなる充実を図っていきたい。**

御議論いただきたい点

社会環境が大きく変化する中、

公立高校として、また京都市が設置する高校として、

京都市立高校が今後果たすべき役割とは。

「京都市立高校スクール・ミッション」に必要な観点や内容は何か。